

二〇二一
あ
か
り

248-4 (漢)

俳諧資料カード	
年代	享和元年
編者 (筆者)	月波
書名	北の河
備考	近江

(下垣内蔵)

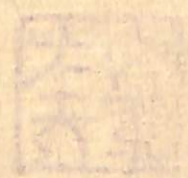
窗明糸敷

を江の月波を糸を編く
られ、控糸を工とて佳古糸
を考つるふなく佳流をその
そとをともて号好あり、不習を
あし粟此を糸とてハ不習を
いさこ、乃中工糸能押あるふ



呉市阿賀北五丁目三番八号
下谷内和人
電話〇三三二九八五番
〒737

そいふも空をみるさるみの雲を
ちかほのちかほのちかほのちかほ
もてけいふ小早くとまのちかほ
ももいふちかほのちかほのちかほ
大陽乃のちかほのちかほのちかほ
まのちかほのちかほのちかほのちかほ
ちかほのちかほのちかほのちかほ



乃田ちかほのちかほのちかほ
ちかほのちかほのちかほのちかほ
のちかほのちかほのちかほのちかほ
しといふちかほのちかほのちかほ
ちかほのちかほのちかほのちかほ

ちかほのちかほ

来々記後白

立春

梅家

梅家

流

流

茶

茶

茶

茶

大

大

大

大

昔より牛馬の世にありては酒の
 灯のよきとさるるの意のやあきぬ
 水津やあやむれぬ松の葉の
 人のよきとせぬおのけぬあはれ
 若くしてあはれむとては
 松のよきとせぬおのけぬあはれ
 昔より牛馬の世にありては酒の
 灯のよきとさるるの意のやあきぬ
 水津やあやむれぬ松の葉の
 人のよきとせぬおのけぬあはれ
 若くしてあはれむとては
 松のよきとせぬおのけぬあはれ

柳下

花

如

庭

る

子

也

梅

昔より牛馬の世にありては酒の
 灯のよきとさるるの意のやあきぬ
 水津やあやむれぬ松の葉の
 人のよきとせぬおのけぬあはれ
 若くしてあはれむとては
 松のよきとせぬおのけぬあはれ
 昔より牛馬の世にありては酒の
 灯のよきとさるるの意のやあきぬ
 水津やあやむれぬ松の葉の
 人のよきとせぬおのけぬあはれ
 若くしてあはれむとては
 松のよきとせぬおのけぬあはれ

由

松

素

本

里

毒

也

山垣やうめは葉は白く花は紅

ヒメ 山

あれるとては花は白く葉は紅

イロ 山

梅の白くは花の白く葉は紅

サカ 石外

思葉は花は白く葉は紅

イロ 山

青玉の白くは花の白く葉は紅

イロ 石葉

せとまりて花は白く葉は紅

月坡

梅の白くは花の白く葉は紅

ナメ 井竹女

梅の白くは花の白く葉は紅

雪若

紅梅や花は白く葉は紅

キナ 鳥谷

七草下た長

人かあはる葉葉梅と垣乃外

イロ 鳥山

七草や花は白く葉は紅

イロ 鳥川

ひよりあはる葉葉梅と垣乃外

ハリマ 古谷

後きの花は白く葉は紅

イヨ 花仙

あはる花は白く葉は紅

イカハ 三岳

あはる花は白く葉は紅

イト 鳥字

たみ長たむらうのよんて整々のお

甘古

歌

神のまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

丁知

まゝにまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

牝屏

山田のぬもまゝにまゝにぬも禰つ

秋池

ぬもまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

意逸

ぬもまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

意杖

ぬもまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

西崎

三田由や門の若ぬのたろ水

流赤

上あのみまゝにまゝにぬも禰つ

森鴉

ほりまのぬもまゝにまゝにぬも禰つ

界五

ぬもまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

西坡

ぬもまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

芥百

下あやまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

葉英

降やまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

月慈

あやまゝにまゝにまゝにぬも禰つ

意徳

物出にまじりて花の心もよみぬ

雑詠

一 ^{エト} 夕 ^ト
 一 ^セ 相 ^セ
 北 ^ホ 詠 ^セ
 五 ^{エカ} 川 ^セ
 岩 ^{イカ} 丘 ^セ
 犬 ^カ 夢 ^セ
 花 ^カ 人 ^カ

柳 挾

林 ^ナ 曹 ^セ
 花 ^ハ 文 ^セ
 必 ^ハ 山 ^セ
 芦 ^ア 岳 ^セ
 岳 ^ツ 岳 ^セ

花撮

ゆき草のあなろく〜おしろ

^ネ 芥 舎

松山乃ともふく〜やぶら

^ハ 普 所

鳴き〜ちま〜あ〜い〜山

^{カサ} 圃 浦

あまを〜あま〜あま〜あ

^ネ 秀 河

あ〜い〜あ〜あ〜あ〜あ

^カ 丹 山

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^ア 素 口

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^ヨ 羊 炭

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^ヨ 一 清

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^ア 葵 丸

西行の庵

花乃あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^ネ 禾 物

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^イ 柳 塘

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^サ 柏 葉

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^イ 見 司

あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

^ハ 声 岬

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

〜花とぬり〜花とぬり

花とぬり

〜花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

花とぬり〜花とぬり

花とぬり

植物

豆粒や米つふちの木のたねイヨ 岩

何れもかたう木のたねや木のたねアツミ 和 喃

やいも〜〜の木のたねヒセン 布 玉

ひも〜〜の木のたねアツミ 赤 里

色乃の木のたねイ 松 半

松の木のたねカ 赤 玉

新〜花の木のたねアツミ 雀 幸

起妙の木のたね赤 赤 赤

あれ木のたねタテ 蕪 麦

仕立の木のたねイ赤 可 苦

山吹の木のたねイヨ 二 矢

宇治

山吹の木のたね赤 純 口

別れの木のたねム 赤 赤

岩端の木のたね赤 赤 赤

三つとつとや内安ふりまの針

也アキ末

山居きま四地

むしき欲めひしりぬ種おし

而ヲリ后

岩よりくま結ぬやふすれ

負山

春の由掛自

穀掃除境しりなりまのる

悠カハ子

尖乃のひさしきつお山の雲

希アハガ康

高めのあつりしりお有那

子イヨ圃女

しぬるもやま有りのる

赤カサ栢

新もしあしきや掛自

真イヨ吉

声のこたつてあり掛自

犬タカ幸

いさくおとくえよやまの月

栢キタ馬

ぬ月子のあつりおの月

月イヨ植

いさつりのこぶぬやあめ有

赤イヨ市耕

葉の戸やあつりぬも掛自

るイヨ翠

写しつて掛おつくちりか

赤コハリ西

たのめがけをゆりゆり
斗ナ文

葉生歌

まはるるもささるるも花のゆりゆり
末スエ芳ヨシ美ミ

まのけのささるるも花のゆりゆり
花ハナ洞アナ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
夏ナツ興キョウ

まのけのささるるも花のゆりゆり
孤カハチ松マツ

まのけのささるるも花のゆりゆり
華ハナ水ミヅ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
有アリ池イケ

まのけのささるるも花のゆりゆり
懐アツミ酒サケ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
涙ナミダ血チ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
柳ヤナギ爽スベテ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
二ニ松マツ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
天アマ換カヘ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
三ミ枝エダ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
七シチ枝エダ

あめつゆもささるるも花のゆりゆり
可カ尚ナカ

浪むよの海の中
舟子渡る事二白

吹くさぬやうまり 波よその色 アサ 紫人

夏人やさるや 松のひまわり 五

菟道兼泊

秋来さるのひまり 水の音 トサ 槩み

三月晦日
二見浦通夜

きー 潮一 四玉 舟子 舟の 月 アツミ 洲

花咲く 壺より 壺より 壺より 梅林 梅室

明色ハ 池乃 池乃 池乃 池乃 月 坡

石と 岩と 岩と 岩と 岩と 後 岩

梅を 梅を 梅を 梅を 梅を 壺

新小 陸の 陸の 陸の 陸の 坡

浪の 浪の 浪の 浪の 浪の 岩

後佛の地を掃くをふりて
其地乃山を以て其地を
去る所の遠くを急れ地を
築き居りて居りて悪女の
地を以て居りて居りて
野に接する乃其地を以て
百物を以て其地を以て
あまれ居りて居りて

室 坡 第 家 坡 第 室

泥鵌乃其地を以て居りて
川木接する村乃其地を
其地を以て居りて居りて
穀物の地を以て居りて
其地を以て居りて居りて
接するを以て居りて居りて
其地を以て居りて居りて
其地を以て居りて居りて

室 坡 第 家 坡 第 室

まゆのまのゆるりつげてはる星
歌乃中るも 休え申る坂
かゝこゝの餅の溜をゆるり
軍一乃時と 何替る 冬
休と結ると食とものあつて
ふ徳くやとふやぬをゆるり
石州をわづく おとほは源中
角力乃ほやうりくさる縄執

枝 若 家 坡 室 若 坡 斎

る此言字をぬきりの吹去唐
根ち乃首を也くうさる
立まうし花の折枝とせうとせ
忙乃うかり中 暇をそえは猫
浪翁の捺もろくさ中の子
砂をぬきり仕舞 貴もの

家 坡 若 室 坡 若 若

子の根を落すゆかり草

共翠

麦を食ふ海川の縁

月坡

雄乃がく木を食ふ

鵜首

あつちを食ふ

鳥

つばを食ふ

波

すく掃く

盲

織りしを傍から食ふ

蜀

姫を食ふ

坡

養を食ふ

鳥

食を食ふ

鳥

油を食ふ

坡

流を食ふ

鳥

食を食ふ

鳥

和籾の細を食ふ

坡

折くくを程おひう酒とくみ
 樽乃希かりのちりうう
 壺とくを寛と蓋く峰の心
 然くぬるさゆ乃以玉
 人中と己れ後の帯見え
 代りゆ一きふ岩窟
 壺 坡 翠 赤 坡 夏

折くくを程おひう酒とくみ
 樽乃希かりのちりうう
 壺とくを寛と蓋く峰の心
 然くぬるさゆ乃以玉
 人中と己れ後の帯見え
 代りゆ一きふ岩窟
 壺 坡 翠 赤 坡 夏

夏之部 夏白

昔夏

禍赤鼻のひらたう神代めく
 足早うりかき人やは衣之
 夏ぬ織籠のまきうすれりり
 強ぬさやけさうさ紙何百里
 杖引さゆのまむやらりもく
 蜂の巣れうのそんさく更衣
 九 起
 乙 良
 アミ 集
 申 岐 隆
 力
 エト 漢 高

いふはあはるゝの川をよる古の
曲イロ年

多しやあはるゝの川をよる古の
外イロ

若たしあはるゝの川をよる古の
外イロ

色やれをあはるゝの川をよる古の
外イロ

眼さるる佛さ見えさるるの川をよる古の
外イロ

拙抄

卯のむやあはるゝの川をよる古の
外イロ

卯乃家の地をよるゝの川をよる古の
外イロ

乾くゆゑ一帯の川をよるゝの川をよる古の
外イロ

戦くハあめさ成らるゝの川をよるゝの川をよる古の
外イロ

嘆くゆゑあめさ成らるゝの川をよるゝの川をよる古の
外イロ

拙抄

あはるゝの川をよるゝの川をよる古の
外イロ

あはるゝの川をよるゝの川をよる古の
外イロ

あはるゝの川をよるゝの川をよる古の
外イロ

あはるゝの川をよるゝの川をよる古の
外イロ

世をゆきやもくふ宮や麻呂 ネ 葉

はしり物くうらぬもまけの心 イコ 角

あきか白ひてはなもも乃む イカ 舟

元生金剛寺の虚奉り

手後あひく大洋を西り

世の波くもぬか幾うのな ネ 他

ふいつまのち イコ 波

竹のよれ カ 松

神 イコ 竹

糸 イコ 糸

葉 イコ 葉

竹 イコ 竹

梅 イコ 梅

葉 イコ 葉

葉 イコ 葉

葉 イコ 葉

葉 イコ 葉

多叶や伸るのほれ枝を
を^{イヨ}毎

あやみのあふひききふ
吉^イ山

あやむやあふひききふ
吉^イ文

あやむやあふひききふ
可^{イヨ}慈

岸やかたれぬりて花より
百^{スウ}古

あやむ乃ゆり持ちり
柳^カ毒

多叶の牛馬のふり
情^{イヨ}強

あやむやあふひききふ
大^{イヨ}栗

あやむやあふひききふ
素^{イヨ}風

あやむやあふひききふ
花^{イヨ}柳

あやむやあふひききふ
升^{イヨ}く

あやむやあふひききふ
不^{イヨ}舟

あやむやあふひききふ
可^{イヨ}来

あやむやあふひききふ
子^{イヨ}人

あやむやあふひききふ
枝^{イヨ}呼

徳平乃小位の印
小町一葉唐草

解く如く 糠奉さしおしきれ上

十六
島 庄

物下も川 舟橋あゝ 糠之舟

十四
豆 池

是し〜 舟のらりぬ 春 穢

十一
墨 池

とく入る 舟色 舟をたりけり

十
栢 村

と記し 何とさ 舟の菜乃日

九
麦 場

五月の

舟の舟の舟 舟の舟の舟 池の舟

八
と 乙

船形 舟の 渡り 舟の

七
船 枝

舟の 舟の 舟の 枝の

六
曲 淵

麦菜の 舟の 舟の 舟の

五
舟 舟

舟の 舟の 舟の 舟の

四
舟 舟

葉乃 葉の 甘の 舟の

三
石 舟

五月 舟の 舟の 舟の

二
物 舟

舟の 舟の 舟の 舟の

一
舟 舟

舟の 舟の 舟の 舟の

十六
史 山

歌

信並ひきりおまのの庭の沙

買もせぬおの意馬やま庭史

あつらひ拭ぬく指板方飛

遠くお若のふさふ明安

下あつらひおのふさふ月

茶店くと縁入のふさふ事

茶一入のふさふ事

杜

杜

杜

杜

杜

杜

杜

杜

誓

誓

皮

砂

戎

好

川

風

八百口一おのの

おのの口一おのの

おのの口一おのの

おのの口一おのの

おのの口一おのの

おのの口一おのの

おのの口一おのの

おのの口一おのの

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

如柳女

清水

有縁のつらき清水

清水

舟杖乃をれぬ清水

清水

舟のひらけぬ清水

清水

けつりぬ清水

清水

走井

舟の先へ清水

清水

舟の先へ清水

清水

舟の先へ清水

清水

舟の先へ清水

清水

舟の先へ清水

清水

舟の先へ清水

清水

舟の先へ清水

清水

舟の先へ清水

清水

春の風を待つ花の色

晴れた空を渡る鳥の影

ぬくぬくとした春の日の光

あざやかな花の匂い

春の風を待つ花の色

入る春の風を待つ花の色

春の風を待つ花の色

春の風を待つ花の色

洲 波 洲 波 洲 波 洲 波 洲

何處へ行く旅人の足音

史をよめる旅人の足音

旅をよめる旅人の足音

旅をよめる旅人の足音

旅をよめる旅人の足音

旅をよめる旅人の足音

洲 波 洲 波 洲 波 洲 波 洲

枯之部 歳白

月

名月や一枝ひらふ松乃つゆ

^東梅 通

山を歩こちうふいとく松の月

^{徳中}史 也

川舟の月と海とらよもすくら

^{ヲリ}礎 松

よのちあつとあつとのつら松の月

^{ムツ}あつと 也

すくすくあつとあつとあつとあつと

^{ヒセン}五 岳

名月やあつとあつとあつとあつと

^{徳中}淡 亭

梅垣の片側くさすぬん麻
川とくちわと清くさす月
あふ溪や 柳のゆきさの月
ふかき 萩を拾ふぬん糸
仙 泉 城 庭

廣崎月見

暗くさすなれと海や 月の舟
月の雷と雲を流す 白く糸
あふき 萩を拾ふぬん糸乃月
波 文 外 玉

あふき 萩を流す 白く糸
あふき 萩を流す 白く糸
月と雲の 人さす 萩を流す
あふき 萩を流す 白く糸
あふき 萩を流す 白く糸
あふき 萩を流す 白く糸

石山月見

川岸の橋くさすぬん糸
あふき 萩を流す 白く糸
あふき 萩を流す 白く糸

この月も梅の花の香の如く

梅の花の香の如く

この月も梅の花の香の如く

七文

この月も梅の花の香の如く

この月も梅の花の香の如く

この月も梅の花の香の如く

この月も梅の花の香の如く

梅の花の香の如く

七文

梅の花の香の如く

梅の花の香の如く

梅の花の香の如く

梅の花の香の如く

梅の花の香の如く

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

梅

月まゝこゝろぬ夜あゝのあき

梅ツバキ 祀ツバキ

う川 碇 くれ ね ち 里の 青 あり

碇ツバキ 九

か 川 や 枝 の ち くれ 産 せ てる

思ツバキ 文

秋生歌

や ち ち の り の ち ち ち 枝 の 輝

ちツバキ 等

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

折ツバキ 地

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

折ツバキ 地

あ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

日ツバキ 坡

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

杜ツバキ 凌

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

鳥ツバキ 物

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

和ツバキ 友

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

友ツバキ 鼎

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

梅ツバキ 史

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

相ツバキ 一

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

去ツバキ 子

川の中を流るる水

植物

柳 ユナリ 花 ハナ 葉 ハ 緑 キナ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

桃 モモ 花 ハナ 紅 ベニ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

一 イチ 枝 エダ の ノ 葉 ハ 緑 キナ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

是 コノ も モ 花 ハナ 紅 ベニ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

牛 ウシ 乳 チリ 白 シロ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

菰 コ 魚 イサ 汁 ジュ 白 シロ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

海 ウミ 草 クサ 緑 キナ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

柳 ユナリ 花 ハナ 紅 ベニ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

白 シロ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

柳 ユナリ 花 ハナ 紅 ベニ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

桃 モモ 花 ハナ 紅 ベニ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

菊

花 ハナ 黄 キナ 色 イロ 鮮 アサ 明 アカ 也 ナリ

木 キ 容 ヨウ 容 ヨウ 容 ヨウ

脊^{サカ}と^ニた^カれ^ルぬ^ルも^のあ^のふ^ま

葉^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

笑^ハさ^のれ^のみ^のく^はり^のあ^のふ^ま

葉^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

ふ^のの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

何^ニの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

紅葉

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

紅葉

花^ハの^ミち^のり^はく^はり^のあ^のふ^ま

昔よりよて人白き花のや花の月 ハナノキ 東

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 十

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 松 ノ 南

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 明 ノ 良

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 松 ノ 家

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 関 ノ 全

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 葵 ノ 園

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 花 ノ 舎

花のや花のや花のや花の月

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 芳 英

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 降 ノ 波

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 川 ノ 通

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 花 ノ 英

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 乙 ノ 坡

花のや花のや花のや花の月 ハナノキ 花 ノ 通

啼~~~~ 遊戯の姿なき
か~~~~ 如雲の世に
砂人のち~~~~ 春の香
紙入~~~~ けりしもの
南~~~~ 極楽の極りり
人~~~~ けりしもの
玉~~~~ 月見の世の
ゆ~~~~ 母のまじり

坡 華 西 坡 英 通 坡 華

岩~~~~ 草花の世に
傍~~~~ けりしもの
咲~~~~ けりしもの
屋~~~~ 妻の世に
言~~~~ 遠く後~~~~ 又~~~~
誓~~~~ 二台乃~~~~ 紙
水~~~~ けりしもの
小~~~~ 橋~~~~ けりしもの

華 西 坡 英 通 坡 英 通 坡 華

華羽々々妹をきくまゝ
侍美通に梅乃きつ
ちきり〜と垣れ〜の風
眼のな〜大〜 札つげ〜
魚市れ梅分所まの山は
梅〜らたや〜梅板
ほつり〜と出〜る小舟は海の
美〜の〜美〜の〜

通 坡 美 通 坡 美 通 坡

美人〜の〜の〜の〜
妹也〜の〜の〜の〜
つか〜の〜の〜の〜
今度ハ情を〜の〜
華〜の〜の〜の〜
梅子れ梅乃〜の〜
代

坡 通 美 通 坡 美

森松の下やい草花あはれ

月夜

時を乾くも印しらすま枝

松 館

澄月の獨りな梅うらもきて

斧 舎

下青けりりやれふあはれ

松 下

女舟とあはれあはれあはれ中

朗

日産世保し兒秋とあはれり

坡

あはれやうれやうれと年経

下

志あつて能を能くあはれし

舎

能を買し産をけよの遠心

坡

深井へあつて所のあはれさ

館

世より後いつけよえれあはれ

舎

髪を若くすふ船のうらめ

下

市小あはれあはれあはれあはれ

朗

望すすもり江乃中あはれ

坡

あきふかしの花を撞てあ
吹色花を振ふぬさあ
柳子花と踏むかりまは道
子さふりもまゝいそめ麻
酒樽をよそくづくぬ新あふ
石作りおこはるる乃妙
藤汁の癩病をのゑたや
葉を隠れすこの月の笑けこく

月 下 郎 下 舎 郎 下 坡 郎 下 舎 郎 下 坡

ひささの仲のあふ物あふ
子折るまゝあふえああ
麦酒を飲むと中れおあ
十重の壺をさし又あふ
梓葉を合れあふとあ入口
白髪は髪乃ちあふあ
ほろろ月影あふのあふ
あれあふあのかああ

下 舎 郎 下 坡 郎 下 舎 郎 下 坡 郎 下 舎 郎 下 坡

昼中ハ何の事もなれん

風振の爲に踏かへて

鳴くは小人の目覚む

折小幡とつけふ世の口

うぐいとさへは花と

毎日ふえふ折乃戀

...

...

冬を都 恋白

初冬

冬川をや 聲を流し 門梅

十月の朔を流り 矣の柳

遠歩み 庭子 あり 小をう

西面 何原

あつたや 庭の 下

あつたや 庭の 下

景

会

放

能

舍

下

京 道 機

枇 谷

京 南 徳

枇 下

立 下

木より一や波のまはるるは世に貝

エト 物 葉

風の中をふふまのなき相をいけ

京 岩 物

風の吹掃く物も小僧の形

イヨ 葉 夕

高僧寺

あまのや計のたはる根敷は

京 松 船

乾くふく高を流すや川を流

ヒセン 酒 芳

川流や木の葉を流す相乃吉

ハリヤ 一 葉

何事もなかり木は葉を流す月夜に

タハ 葉 雨

木よりを指く柳の葉葉う那

イヨ 尾 葉

心よりより月を流すまをりり

ハ 世 旋

夢をいぬくくちるや柳を流

京 布 丈

時雨

字を根り葉をさらりり知れ

アヲ 一 雨

一しつとぬれくもや根を流

ヒシヤ 嫩 縁

眼よりむやまを流す世の流

イヨ 竹 里

夕よりなまを流す世の流

スガ 碧 山

あはれなる川流のほとけ

^ホ枝月尼

あやしくは川流の時をゆく

^{ヲナリ}梅 豊

あはれなる川流の時をゆく

あはれなる川流の時をゆく

梅 豊

雪書

雪のふりしるは川流の時をゆく

^{ニカ}水 牛

雪のふりしるは川流の時をゆく

^{ヲナリ}梅 津

雪のふりしるは川流の時をゆく

^{ニカ}梅 田

雪のふりしるは川流の時をゆく

^{イヨ}花 旆

雪のふりしるは川流の時をゆく

^{アツミ}麦 里

雪のふりしるは川流の時をゆく

^京巴 江

雪のふりしるは川流の時をゆく

月 坡

雪書

雪のふりしるは川流の時をゆく

^{イヨ}花 堂

雪のふりしるは川流の時をゆく

^{エト}南 枝

雪のふりしるは川流の時をゆく

^ハ岳 法

霧風やひらりや降りしはるる

下

風

おぼゆる怖ぬ影と風振の露

未

歩

露もつる露もつる露もつる

き

見

も一竹の立花もれおおお

イヨ

女

大おやもつりし舟乃はのた

ヒシ

実

おの月

おの月

侍ふおぬ治の能御やを露

京

西

りおの露も牛席もひけてを露

露

栗

おの月おの月おの月

おの月

吹

山溪の露もあまの月

ヲハリ

斤

おの月の地をけしるおの月

依中

外

おの月おの月おの月

サカイ

技

おの月おの月おの月

イセ

枝

おの月おの月おの月

おの月

枝

おの月おの月おの月

おの月

枝

おの月おの月おの月

おの月

枝

おの月おの月おの月

おの月

枝

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

千島水鳥

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

極物

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

あつたてのつらさのさへはなれぬ

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

下

子芳のてふ花拾ふゆりむ 拾 年

日乃うけこありてんさく 岐 懐

孫寺や 山 横

りや 一 寸

波 一 寸

葉の 一 寸

乃 守 三

大根 一 寸

い 一 寸

日 中 杖

麦 一 寸

類 一 寸

葉 一 寸

葉 一 寸

葉 一 寸

葉 一 寸

葉 一 寸

葉 一 寸

葉 一 寸

起るくろく鶴うむくまりすし柳
 石二柱
 横町をおふくくくくくくくくく
 月桂
 沙走るくくくくくくくくく
 一毛
 いくくくくくくくくくくくくく
 五
 百姓の戸口をぬく師走くく
 百
 人心半く報くくくくくく
 梅宮
 人か半く報くくくくくく
 梅宮

歳暮

正月とちうに柳くくくくく
 是

焼もくくくくくくく
 下
 芳めくくくくくく
 三
 空つんくくくくく
 東
 年の市鶴拾くくく
 一
 米搗くくくくく
 北
 年
 東
 年
 北

除夕東山

よの峯くくくくくく
 北

追加 桑の部

田々々の通るわきにても成りり カッサ 文 水

う川くさぬのわきく ミカハ 穂 山

初曆を イミ の多さ家 部 池

伊能や眼 セツ の多さ家 季 後

り ミカハ 撫を松 イミ 宇

反乃部

初給夕形く乃 山シロ 柳

一 クシ 庭の上乃 新菜 クシ 宿

寄くと見 ヒコ えさつ ヒコ 柳のち ヒコ 竹 月

牛 ア 子 ア 知 ア ぬ ア 糸 ア あり ア 糸 ア 牡丹 ア 容

先情

知 ミカハ り ミカハ 先 ミカハ 人 ミカハ あ ミカハ り ミカハ 宿 ミカハ 乃 ミカハ 宿

早 イセ り イセ 木 イセ 乃 イセ 柳 イセ 乃 イセ 乃 イセ 乃 イセ 乃 イセ 乃

あ サカイ り サカイ 乃 サカイ 乃 サカイ 乃 サカイ 乃 サカイ 乃 サカイ 乃 サカイ 乃

色 ハ 丁 ハ を ハ 依 ハ り ハ 乃 ハ を ハ 乃 ハ の ハ 乃 ハ の ハ 乃 ハ の ハ 乃 ハ の ハ 乃

短葉の折ヤサキのハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

秋乃花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

冬乃花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

花ハ花ハ花ハ花ハ花ハ

ハナ 花

嘉永三年戊申年

秋日寄

近江

之好野坡海



東海院佛堂
御指物細
菊屋平兵衛

